

「フィリピン学生派遣プログラム参加報告書」

京都大学大学院 経営管理教育部 1年

川口勇貴

① 学習成果

本プログラム参加前は、フィリピンの交通渋滞の深刻さを表面的にしか知ることができませんでしたが、実際に現地の交通事情を目の当たりにし、また各方面で活躍するフィリピン交通インフラに係る有識者の現状報告を聞くことで、如何に大きな問題を抱えているか理解・体感することができました。

また、フィリピンにおいて交通事情の問題点をロールモデルとすることで、他に同様の問題点を抱えている国（インドネシアなど）にも横展開できるということを学びました。同時に、横展開可能な国々の有識者が能動的に協力することで、世界全体で同様の問題の早期解決が見込まれると感じました。

② 海外での経験

これまでに北米（カナダ・アメリカ）へ3年間留学していたこともあり、北米・欧州・日本が中心となって世界経済を押し上げていく感覚が自然と身に染みていました。しかしながら、今回、フィリピンをはじめとするアジア諸国出身の参加者と積極的に意見交換をすることで、各々が経済面での発展や直面している課題の解決に強い意欲を持っていることを改めて体感することができました。経済の発展を語るうえで、先進国（Developed Countries）以外の新興国（Emerging Countries）にも注視する重要性を認識する良い経験になりました。

③ プログラム内容

本プログラムでは、アジア諸国で活躍する経済学者、教授、NGO、政策立案者、学生など多種多様なプロフェッショナルが、どのようにアジア経済発展に寄与できるかをマイクロファイナンスやFCGE（Financial Computable General Equilibrium）などの分析手法を用いた課題抽出法や問題解決法を議論しました。

また、フィリピンの環境問題（大気汚染、水質汚染、洪水、地震など）や交通インフラ（自動車、バス、飛行機など）についての現状・問題点を共有していただき、よりクリーンなエネルギーを駆使することや首都マニラ（Metro Manila）以外に主要な都市を築くことなど、現在抱えている課題を打破する計画の最先端を学びました。

④ 進路への影響について

今後の進路は、本プログラム参加前と変わらず IT 戦略に特化したグローバルコンサルティングファームにて務めようと考えています。本プログラムで得たあらゆる国の価値観や現状に対する打開策を参考にしつつ、クライアントの現状から輝きある将来を導き出し、より大きな付加価値を与えることができるグローバルコンサルタントになるよう精進する所存です。